行政視察報告書（No.1）

令和７年９月１日

代表者　堀内　伸悟　様

報告者氏名（代表）松井　英雄　㊞

次のとおり、視察をしましたので関係書類を添えて報告いたします。

１　視察者氏名

堀内　伸悟	清水　美加子	藤澤　紀子	浅川　徹
松井　英雄			

２　視察期間

令和７年８月２６日　～　令和７年８月２８日

３　視察先、視察事項、選定理由

日　　時	視察先	視察事項及び選定理由
８月２７日AM	札幌市若者支援総合センター	若者の「働き出す力」を引き出し、「職場定着するまで」を全面的にバックアップする機関の当施設の視察
８月２７日PMから２８日AM	札幌市	第20回全国市議会議長会研究フォーラム

行　政　視　察　報　告　書（No.２）

（視察参加者必須）

報告者氏名　　堀内　伸悟

月　日	視　察　先	視察結果（参考になった事項、考察）
8月27日	札幌市若者支援総合センター(ユースプラス)	**１．はじめに** 本市では、若年層の孤立防止、社会参加促進、ひきこもりや無業状態の若者への支援体制の強化を課題とする中、先進的な若者支援施策を展開している自治体の取り組みを学ぶことを目的として、北海道札幌市に設置されている「札幌市若者支援総合センター Youth+（ユースプラス）」を視察した。 ユースプラスは、札幌市が主体となって展開する若者支援の拠点施設であり、札幌市全体に複数設置されている「Youth+（ユースプラス）」の中核的な存在である。就労支援にとどまらず、若者の「居場所」としての機能や、社会的自立へのステップを支える幅広いプログラムが提供されており、地域に根ざした実践的支援が展開されている。 **２．施設概要と事業の特徴** Youth+（ユースプラス）は、15歳から39歳までの若者を主な対象とし、「働くこと」「生きること」「つながること」を柱に、多様なニーズに応じた支援を行っている。特に、学校にも職場にも所属していない、いわゆる「社会的孤立状態」にある若者に対し、段階的な社会参加を促す場として機能している点が特徴である。 施設では、専門スタッフによる個別相談のほか、グループワーク、ボランティア体験、創作活動など、さまざまなプログラムが実施されている。また、若者が自由に立ち寄り、安心して過ごすことができる「居場所」としての空間も提供されており、初期段階の支援を丁寧に積み重ねることで、本人の自発性と自信の回復を図っている。 施設の雰囲気も非常に開放的で、カフェのような内装や、若者が主体的に空間づくりに関わる仕組みなどが整備されており、「支援の場」でありながらも「若者の居心地のよい空間」としてデザインされている点が印象的であった。 **３．視察当日の概要** 視察当日は、スタッフより、ユースプラスの設立経緯、運営体制、主な事業内容について説明を受けた。札幌市では「若者支援条例」を制定し、市として若者の社会参画や自立を総合的に支援する方針を掲げており、ユースプラスはその実行拠点として市内6カ所に展開されている。 また、ユースプラスと連携している「さっぽろ若者サポートステーション」との役割分担や、学校や福祉部門との連携体制、地域ボランティアとの協働などについても具体的に紹介いただいた。 その後、実際の活動スペースを見学し、利用者が作成した作品や掲示物、プログラム紹介の掲示などを通じて、若者が「関わりながら成長する場」としての実態を体感することができた。 **４．所感と考察** ユースプラスの取り組みは、「支援」ではなく「関係性の構築」から始まる点に大きな特徴があると感じた。就労や進学といった明確な目標を持たない若者に対しても、まずは居場所を提供し、信頼関係を築くことから始めるアプローチは、支援の“前段階”として非常に有効である。

		また、若者が自ら企画・運営に携わるプログラムも多く、受け身の支援にとどまらず「主体性の回復」を重視した運営方針が貫かれていた。職員による伴走支援と、若者同士の緩やかなコミュニティが両立する仕組みが整備されており、そのバランスの良さは本市の支援体制を検討する上でも大いに参考となるものである。 **５．今後の施策への活用** 今回の視察を通じ、本市でも以下のような方向性での取り組みが有効であると考えられる。 「居場所」と「支援」を分けて考えるのではなく、段階的に移行できる空間を整備すること 行政の枠組みを超えた多様な主体（NPO、地域ボランティア、民間企業等）との協働体制の構築 若者の自発性を尊重したプログラム運営と、本人が成長を実感できる仕組みづくりの導入 学校・福祉・就労支援機関との継続的な連携強化とケース共有のルール化 特定の支援対象だけでなく、「なんとなく不安を抱えている若者」も受け入れる柔軟な体制 特に、早期の相談・関係構築が将来の社会的孤立の予防に直結することを踏まえると、「相談に来たときが支援の始まり」というスタンスの大切さを改めて実感した。
8月27日 ~8月28日	札幌文化芸術劇場hitaru	第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌 ―地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて― **１．はじめに** 令和7年8月27日から28日にかけて、北海道札幌市の「札幌文化芸術劇場 hitaru」において開催された、第20回全国市議会議長会研究フォーラムに参加した。本フォーラムは、深刻化する「地方議会議員のなり手不足問題」に焦点を当て、全国各地の市議会関係者および有識者が一堂に会し、現状の共有と課題解決に向けた議論を行うものである。 地方議会は、住民に最も近い自治の現場として、地域社会の発展と民主主義の根幹を担っている。しかしながら、議員のなり手不足は今や全国的な課題となっており、その背景には報酬、労働環境、生活との両立といった多様な要因が複雑に絡んでいる。本報告書では、2日間のプログラムの概要と学びを記録するとともに、今後の本市議会における取り組みへの示唆をまとめる。 **２．初日（8月27日）の概要** 初日は、伊吹文明元衆議院議長による基調講演から始まり、続いて「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」と題されたパネルディスカッションが行われた。 伊吹氏の講演では、地方議会の歴史的意義や役割についての振り返りがなされ、地方議員が果たすべき責任の重さと、その仕事の公共的価値が強調された。議員は地域住民の信託を受けて意思決定を行う存在であり、その役割の重要性を住民にも広く伝えていく努力が必要であるという指摘は、まさに本フォーラムの趣旨とも合致するものであった。

続くパネルディスカッションでは、学識経験者、メディア関係者、そして現職議長の４名が登壇し、それぞれの立場から、地方議会の課題と可能性について意見が交わされた。

コーディネーターを務めた辻陽氏（近畿大学教授）は、令和５年の地方自治法改正に伴う制度面の変化を踏まえ、議員定数や報酬の見直し、また選挙制度そのものの再考を提起。なり手不足の問題は構造的であり、単なる「人手不足」ではなく、制度の形骸化や地域政治の魅力低下に起因する側面もあると指摘された。

東京大学の牧原出教授は、人口減少社会における議会の役割について述べ、住民が地域に「尊厳」を持って暮らせる環境づくりが議会の使命であるとした。特に、デジタル化の進展により行政運営の効率化が求められる中でも、議会は「熟議の場」としての価値を保ち続けるべきであると説いた。

読売新聞の白石洋一氏は、最近の統一地方選挙の動向を分析。議員に求められるものが多くなる一方で、報酬は見合わず、候補者が減る傾向にある実態を紹介した。立候補に際しては、金銭的負担、落選リスク、育児・介護との両立、さらにはネットでの誹謗中傷など、多くの困難が立ちはだかっているという。こうした課題に対して、立候補休暇や夜間議会、オンライン化の導入など柔軟な制度設計が必要であり、特に「ふるさと議員制度（仮称）」のような地域外からの立候補を可能とする仕組みにも注目すべきだと述べた。

また、山下節子氏（宇部市議会議長）および長内直也氏（札幌市議会議長）からは、それぞれの議会における具体的な取り組みが紹介された。

宇部市では、議会の「見える化」と「市民の関心の喚起」を重視し、インターネット中継やFMラジオでの本会議放送、議会だよりの全戸配布を実施。また、主権者教育の一環として、高校生議会や子ども選挙を通じて、若年層に政治参加の意識を促す施策を行っている。議員定数や報酬の見直しを行う特別委員会も設置し、立候補環境の整備にも取り組んでいる点が印象的であった。

札幌市においても、小中学生向けの議場見学の紹介、自由研究としての活用、議会キッズページや市議会子ども教室の開催など、主権者教育に力を入れており、地域全体で議会を身近に感じてもらう工夫がなされていることが紹介された。

３．２日目（8月28日）の概要

２日目は、「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」と題した課題討議が実施された。コーディネーターを務めたのは、関東学院大学の牧瀬稔教授であり、各地の具体事例に基づく報告が行われた。

まず、今井康善氏（岡谷市前議長）は、令和５年の統一地方選において岡谷市議会が全国唯一の「定数割れ」を起こしたことに触れ、その深刻さと、それに対する市議会としての取り組みについて説明。SNSによる情報発信、傍聴キャンペーン、広報機能の充実に加え、市民との対話集会や議会報告会を積極的に展開しており、議会と市民の距離を縮める努力が続けられていることが印象的であった。

平神純子氏（南さつま市）は、1996年に設立された「女性議員100人にする会」として、セミナーや出前講座を通じて女性の政治参加を推進してきた経緯を紹介。既に県内で100人を達成したものの、依然としてゼロ議会が存在しており、今後も継続的な啓発活動が必要であるとの認識が示された。

中野進氏（白山市議会議長）は、選挙直前まで候補者数が定数に満たなかったという危機感から、議員の在り方検証委員会を設置し、市民と共に議会の未来を考える「み

		んなでギカイを考えるキカイ」や議会報告会の開催、政治倫理条例の改正など、幅広い改革に取り組んでいると報告した。 **4．所感と今後の展望** 2日間を通じて感じたのは、議員のなり手不足問題は一過性の現象ではなく、制度、社会構造、価値観の変化を反映した本質的な課題であるということである。今後は単なる定数や報酬の見直しだけではなく、議会が市民にとって「参加したくなる場」としての魅力を持ちうるよう、不断の改革が求められる。 情報発信の工夫、主権者教育の充実、多様な働き方に対応した議会運営、そして市民との双方向の関係構築は、すべて本市議会にとっても有益な示唆である。先進事例を参考にしつつ、地域特性に合った施策を検討していく必要がある。 **5．結びに** 本フォーラムは、議会制民主主義の根幹にかかわる「なり手不足問題」について、現状を直視し、解決に向けた多角的な議論と知見を得る機会となった。今後、本市議会においても、本報告を踏まえ、より開かれた、魅力ある議会づくりに向けて検討を進めていく所存である。

行　政　視　察　報　告　書（No.2）

（視察参加者必須）

報告者　　松井英雄

月　日	研　修　先	視察結果（参考になった事項、考察）
8月27日	札幌市	**札幌市若者支援総合センター** **（さっぽろ若者サポートステーション）** 【考察】 公益財団法人さっぽろ青少年女性活躍協会が指定管理者として運営しているセンターで、パンフレットには「サポステは、「働く」への一歩を踏み出したい15歳～49歳までの現在、お仕事をされていない方や就学中でない方たちとじっくり向き合い、本人やご家族の方々だけでは解決が難しい「働き出す力」を引き出し、「職場定着するまで」を全面的にバックアップする機関です。とあります。札幌市内には5か所のセンターがあり、セミナーや相談、職場体験などのプログラムから交流なども行われている。また、さっぽろ子ども・若者支援地域協議会を通じて、教育・医療・福祉などの専門機関と連携しており、利用者さんが相談など行く際には、伴奏支援で同行している。センター内でも、課題解決に向け職員間で個人の課題など共有し解決に向けて協議が行われている。長野市内のサポステと比べ、入りやすく中も自由に使ってというような居場所、交流の場となっており、休日は多くの方が利用されているとのこと。長野市議会と高等教育機関や高校生との意見交換でも若者の居場所が欲しいとの声が多くあり、もんぜんぷら座などにある場所では不足しているように思い、更に整備する必要があると考察した。

8月27日、28日	札幌市	**第20回全国市議会議長会研究フォーラム** 第 20 回の研究フォーラムのテーマは、「地方議員のなり手不足問題の解決に向けて」で、基調講演やパネルデスカッションが行われた。 事例の中で、市民との意見交換の実施したところ、特に若い世代や女性から「議員に専門性を持って課題解決してほしい」という声が多く寄せられた。 議員と市民が直接対話できる機会をつくれたこと自体が成果。 市民の理解や参加意欲の高まりにつながった。などの声があった。 議会改革の推進では、ICT 活用や議員報酬の議論などを通じ、活動環境改善の必要性を共有。 議員数の削減や新人立候補者の増加なども一部進展が見られた。 他自治体の事例として長野県佐久市では説明会・報酬改善などにより新人立候補が増加し、多様な人材確保に向けた取り組みの参考となったとのことである。 課題では、若年層・女性議員の不足があげられ20代・30代の立候補は依然ゼロ、女性議員割合は全国的に増加傾向だが、地方（特に鹿児島など）では遅れが顕著。 議員の活動環境の改善不足では、議員報酬の低さや活動経費（郵

		送費など）の自己負担が大きく、立候補のハードルになっている。 子育てや仕事と両立できる仕組みが未整備。 市民理解と議会の信頼性では、市民から「議会が何をしているか分からない」という声がある。 形だけの賛成に流れる議会運営や、忖度的な雰囲気が課題。 議員自身の資質・学びでは、政策立案や行政チェックには高度な知識・調査力が必要。 勉強不足や「おかしいことをおかしいと言えない」体質の改善が求められる。 今後の方向性では、市民と議会の架け橋 立候補環境の整備があげられ報酬改善、子育て・仕事との両立支援、ICT 活用による負担軽減。 女性・若者の参画推進 議員が専門性と情熱を持って行政に対して提言・チェックを行い、市民から「議員は必要」と認識される議会を目指す。 などが意見や事例として挙げられた。 長野市議会においては、立候補者は多く 20 代の議員も誕生した半面、投票率の低下という点では、日ごろの議会、議員の活動を知ってもらうなど大切であり多様で持続可能な議会となっていくと考察できた。

行 政 視 察 報 告 書（No.2）

（視察参加者必須）

報告者氏名　清水美加子

月　日	研　修　先	視察結果（参考になった事項、考察）
8月27日 （水）	札幌文化芸術劇場 hitaru	**第20回全国市議会議長会研究フォーラムin札幌** **基調講演「主権を預かる誇りと責任」** **伊吹文明元衆議院議員** 【概要】 1983年～2021年まで衆議院議員。内、2012年～2014年の2年間全議員会の会長にあたる衆議院議長を務めた。現在83歳。 長い間、国を預かる議員として務められた経験から、市議会議員のの課題を提起されるとともに、議員の立場の重みを訴えられた 【考察】 市議会議員は市長と同等の立場であるという自覚をもつというお話をされ、市民の代表として、市長にも接していく事の必要性をあらためて感じると共に、議員になったあとの生活の保障のお話の中で、議員退職後に生活保護を受けている方もいるとお聞きし、老後の保障がない議員という仕事においての「なり手不足」の問題は、大きなものであると実感しました。 【パネルディスカッション】 「多様な人材の参画促進の観点から 地方議会議員のなり手不足問題を考える」 コーディネイター：辻　陽　氏［近畿大学法学部教授］ パネリスト：牧原　出　氏　［東京大学教授］ 白石　洋一氏　［読売新聞東京本社政治部次長］ 山下　節子氏　［山口県宇部市議会議長］ 長内　直也氏　［北海道札幌市議会議長］ 【概要】 ①　地方議員のなり手不足問題 ・地方議会・議員に対する無関心。もしくは不信が広がる現況 ・地方議会選挙における投票率に低下 ・ここ数回の統一地方選挙では、無投票当選者や定員割れが顕著に増加 地方議会への無関心、又、投票率の低下について、市議会として進めるべきこととして、「議会の役割・議員の仕事への関心を高める（や

		りがいを知ってもらう)」、「現役世代、多様な人材が立候補しやすい環境作り」の２点があげられるとともに、主権者教育の必要性があげられた。 ② なり手不足問題に関する３つの論点 ・議員の多様性や住民代表性の確保：若者や女性、会社員などが立候補しやすい環境の整備 ・議員定数・議員報酬のあり方 ・令和５年地方自治法改正（地方議会の役割及び議員の職務等の明確化） 経済的な不安・老後の不安・議員活動への不安を払拭し、議員になりたい人が立候補しやすい環境を作ることの重要性があげられ、具体的な項目として、議員報酬の見直しや国民健康保険と年金についても見直しが必要である。更に、議員定数の見直し・議員活動の活性化・議員の仕事の魅力向上の必要性もあげられた。 ③ なり手不足問題の解決に向けた提言 ・それぞれのパネリストから 市民にわかりやすい議会であることが必要であり、なりたいと思える魅力ある仕事であることを伝えていく事が大切。 人口の少ない市や、町村議員においては報酬のみで生活することが難しい上、選挙時におけるお金の負担は大きい。このことも議員のなり手不足の要因になっているのではないか。 日々の活動を理解してもらうには、議員の取組がかかっている。 【考察】 議員のなり手不足問題は、喫緊の課題であると考えています。全国の選挙の中で、無投票当選のところも多く、立候補すればだれでも当選出来てしまうことは、議会の質を下げることにもつながりかねないと危惧するところです。 とはいえ、議員の仕事においての理解度も低いと考えているので、私たち議員の立場としても、もっと積極的な発信の必要性を感じます。 本市においてもこども議会や高校・大学との意見交換会など、政治に関心を持ってもらうための取組を行って頂いているので、更に、対象を広げたり、内容を検討していく必要性があると考えます。

8月28日 （木） AM	さっぽろ若者サポートステーション	札幌市若者支援総合センター 【概要】 「働く」への一歩を踏み出したい15歳～４９歳までの現在、お仕事をされていない人や就学中でない人たちとじっくり向き合い、本人や家族だけでは解決が難しい「働きだす力」を引き出し、「職場定着するまで」を全面的にバックアップする機関。 中央区にあるYouth＋センターをはじめ、東区のYouth＋アカシア・白石区Youth＋ポプラ・豊平区Youth＋豊平・西区Youth＋宮の沢の５カ所にあり、体育館完備、畑など、それぞれが特色を持つ。 【考察】 長野市において、若者の居場所がもっとあってよいのではと考えています。以前、市立長野高校の生徒の皆さんと意見交換会を行った際、学習できるような居場所がほしいとの声が多くありました。 札幌のサポートステーションには軽食なども用意されており、いつでも気軽に行け、気兼ねなくいられる空間は、生徒たちの思いが叶った居場所であると、とても感じます。 更に、体育館で運動ができたり、畑で作った野菜で皆で調理をしたりと、本人の希望に合わせてセンターを選ぶことができることも若者に寄り添った施設であると思います。 本市においても、参考にすべき施設だと考えます。
PM	札幌文化芸術劇場hitaru	**第20回全国市議会議長会研究フォーラムin札幌** 【課題講義】 「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」 コーディネイター：牧瀬　稔　氏「関東学院大学法学部地域創生学科教授」 事例報告者：今井　康善　氏「長野県岡谷市議会前議長」 ：平神　純子　氏「鹿児島県南さつま市議会議員」 ：中野　　進　氏「石川県白山市議会議員」 【概要】 ・２０２３年（令和５年）の統一地方選挙では、投票率の低下や無投票当選者の割合が高まるなど、小規模市議会における議員のなり手不足が深刻化した。

・若者や女性、会社員など、多様な人材の地方議会への参画を促し、議会を活性化することは、多くの市議会に共通の緊要な課題である
・今後は、議会に対する関心を高め、多様な人材の地方議会への参画促進に地方議会がより積極的に取り組む必要がある。
・今回は地方議会の課題と解決策について議論を深める。
との、上記の内容を中心に３市の取組報告があった

○岡谷市は、令和５年に市議会議員選挙が定数割れの無投票になったことで、
① 議会情報のオープン化（情報共有）
② 住民の議会への参加（住民参画）
③ 議会機能の強化（機能強化）
④ 議員の「なり手不足」対策
に取り組んだ。
シンポジウム。市民との対話集会の取り組む中で、女性の中からも「議員になりたい」という方も出てきた。また、定数の見直しをする中で、一歩前進している

○鹿児島では、１９９６年に県内の女性議員を１００人にする会を立ち上げ、7回シリーズの政治参画セミナーや県内に出向き出前セミナー、行政キャラバン、発掘から選挙まで徹底したボランティアで支え、これまで１５人ほど関わる。１００人達成はクリアーしたが、翌月９９人になるなどまだまだ挑戦が続いている。残されたゼロ議会６自治体に女性議員を誕生させるのが次なる目標。

鹿児島県統一地方選挙時の女性議員数と割合・順位

	1991	1995	1999	2003	2007	2011	2015	2019	2023
県	1	3	2	2	3	3	4	5	11
市	10	9	14	25	36	35	37	45	61
町村	8	16	34	50	15	11	12	16	26
合計	19	28	50	77	54	49	53	66	98
割合	1.0%	1.5%	2.8%	4.5%	5.3%	5.9%	7.0%	8.9%	13.8%
順位	45	46	42	38	44	45	41	39	35

上記の表のように、着実に女性議員が増えている。

○白山市では、令和３年２月の選挙において、告示２週間前でも定数より２人少ない出馬表明、投票率が前回選挙よりも－7.48%、現職は

		全員当選。議員のなり手不足に対する危機が顕在化したことをきっかけに R3.5 月　未来へつなぐ議員の在り方検証委員会の設置 R3. 7 月　議員討論会の開催 R 3.11 月　白山市の未来へつなぐシンポジウムの開催 R4.4月　　「みんなでギカイを考えるキカイ」実行委員会の設置 ⇘ R4.5 月～11 月市民との意見交換「みんなでギカイを考えるキカイ」の開催 R5. 3 月　政治倫理条例の一部改正 R5. 3 月　広報広聴委員会の充実 ⇘ R5. 4 月～議会報告会、意見交換会を積極的に実施 などの取組を行ってきた。 結果、令和３年選挙時、立候補者２３人（女性２人）だったのに対し、令和７年の選挙時には、立候補者２５人（女性３人）と増えた。 ただし、２０代・３０代が０人であったり、女性がまだまだ少ないなど課題も残る。 【考察】 前日の考察とも重なる部分もあるが、3 市の取組報告をお聴きする中で、議員の仕事を理解してもらうことは非常に重要であると感じる。また、市の課題を共有することが意欲につながるとも感じた。 　これは、議員限らず多くの職種でなり手不足が大きな課題となっている中において重要なことであると考える。 　本市においても、広報広聴委員会が立ち上がり、あらたな取組を模索することになった。女性議員の増加、若者の増加等、様々な課題に対し、他市の取組を検証しながら長野市ならではの「なり手不足問題」対策に取り組んでいきたい。

行　政　視　察　報　告　書（No.2）

（視察参加者必須）

報告者氏名　　藤澤　紀子

月　日	研　修　先	視察結果（参考になった事項、考察、所感等）
8月27日 （水） AM	札幌市若者支援総合センター （Youth＋センター）	○札幌市若者支援施設 Youth＋（ユースプラス）の取り組みについて 札幌市では、若者の社会的自立を総合的に支援するため、平成22年4月に若者支援総合センター（Youth＋センター）1か所、及び若者活動センター（Youth＋アカシア、Youth＋ポプラ、Youth＋豊平、Youth＋宮の沢）4カ所を開設。 Youth＋は、15歳～34歳の若者を中心とした社会参加活動・交流の拠点。各施設では、引きこもり・ニート等の若者の自立や社会復帰の支援、若者の仲間づくりやまちづくりなどの活動のサポートのほか、一般の方も含めて体育室や音楽室、活動室等の貸室を行っている。また、講座や交流イベントを実施。各 Youth＋には若者を支援する専門職のユースワーカーがおり、対人関係、進路・仕事のことなど、悩みの相談にも応じ、若者の成長や自立、やりたいことの実現を応援している。（設置するにあたり、若者支援施条例が平成21年10月に交付された。） 札幌市は道内から勉学や勤労のために若者が集まってくる地域ということもあり、一人暮らしの若者を支援するための勤労青少年ホーム「レッツ」を充実させた。それが発展したのが Youth＋（ユースプラス）。 ・所管：子ども未来局子ども育成部子どもの権利推進課 ・指定管理…（公財）さっぽろ青少年女性活動協会（札幌市の出資のもと設立された財団で、グループワーカーの専門家を確保し、青少年の健全育成と青少年女性の社会参加の促進を図る目的で活動している） 【所感等】 今回は Youth＋センターの見学をしてお話を伺った。札幌大通りの近くという立地から通いやすく、学校が夏休みの期間は昼間も学生たちが自習などに訪れていたとのこと。放課後の居場所にもなる。ボードゲームやカードゲーム、読書のための本、卓球台、テレビ、ビデオゲームなど、色々なものが揃っており、子どもや若者が安心してゆっ

		くり過ごせる。カップラーメンやパンなども売っており、1日中過ごすこともできる。 　ユースワーカーは、家族でもない先生でもない大人として、話を聞いてくれる、客観的な意見やアドバイスをくれる、相談にのってくれる人。対人関係、進路・仕事のことなど、多様な相談に応じる。 　長野市でも中高生の放課後や長期休みの居場所は課題である。Youth＋センターは勤労青少年ホームからの発展であるが、長野市内の公民館、交流センター、勤労青少年ホームなど、汎用性を高くして対応するなど、考え方を柔軟にしていくことが必要ではないか。
PM	全国市議会議長会研究フォーラム（札幌文化芸術劇場 hitaru）	○市議会議長研究フォーラム（第１日目） ・開会式 ・基調講演「主権を預かる誇りと責任」伊吹文明元衆議院議長 ・パネルディスカッション「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足を考える」
8月28日 （木） AM		○市議会議長会研究フォーラム（第２日目） ・課題討議「地方議員のなり手不足問題の取り組み報告」 　～事例報告者～ 　今井康善（長野県岡谷市議会前議長） 　平神純子（鹿児島県南さつま市議会議員） 　中野　進（石川県白山市議会議長） 　二日間にわたり行われた研究フォーラムでは、「議員のなり手不足」について、パネルディスカッションや事例報告、課題討議などが行われた。 　なり手不足の要因として、「議員」が身近でないこと（小学生のなりたい仕事５８位）、定期的に選挙があり落選の可能性もあり安定していないこと（親が子どもになってほしくない職業３位）、テレビなどの影響でイメージがあまりよくないこと、金銭的な問題（選挙の供託金、議員報酬、出費が多いなど）、待遇（年金は国民年金、個人情報だだもれ、裁量労働制は場合により３６５日、福利厚生なし、退職金なし）などがあげられた。 　では、どうすれば議員になりたいと思ってもらえるか。各事例報告では、それぞれの市での取組等について発表された。

		例えば長野県の岡谷市では、令和５年の選挙で全国２１の自治体で定数割れが起きた時、市として全国で唯一定数割れになってしまったことを受け、挑戦を始めた。議会の情報共有（SNS を活用した広報強化、広聴機能の充実、一般質問傍聴キャンペーン）、マニフェストスイッチ（外部サイト）の活用、公民館講座での「市議会講座」、議場コンサート、「議員のなり手不足に向き合う」シンポジウムの開催など、様々な挑戦をしてきた。⇒結果が出るのは次回の統一地方選挙 多くのパネリスト、報告者の意見として、まず議会のことや議員のことを知ってもらいキャリアデザインの中に議員という選択をいれてもらうこと、オンラインでの委員会開催などで議員の子育てや介護に対応するなど議会のシステム自体を改善していくことなどがあげられた。 【所感等】 議員のなり手不足、投票率低下、主権者教育など、すべて繋がっていると感じた。この問題への対応策として、広報広聴の役割は重要である。私自身、広報広聴委員会に所属しており、委員会の可能性の広さに期待が膨らんでいる。 「主権者教育は議員の役割ではないのでは？」という意見もあるが、もちろん学校には学校の「主権者教育」があると思うし、行政には行政の役割がある。すべての主権者教育を議会が担うということではなく、議会ならではの「主権者教育」に取組み、結果として議会も市も良くなるのであれば、力を尽くすべきだと思う。 長野市は幸か不幸か、毎回定数を大きく上回る立候補者がおり、「なり手不足」そのものが課題ではないのかもしれないが、人口減少の時代であることや、議員の女性比率や若者比率といった点では参考にしたいところも多かった。また、市民をどう巻き込んでいくかなど、課題は多い。そして何より、改革に臨むとき、へこたれずに何度でもチャレンジする勇気と情熱が必要だ。 まずは、議会や議員に興味を見ってもらえるよう、自らの発信力を磨くとともに、広報や意見交換会などの在り方を見直し、常に新しい視点や方法を模索していきたい。

行 政 視 察 報 告 書（No.2）

（視察参加者必須）

報告者氏名　浅川　徹

月　日	訪問先	訪問結果（参考になった事項、考察）
8月27日 ～ 8月28日	＜会合名＞ 第20回 全国市議会・ 議長会フォーラム ＜開催場所＞ ① 札幌市文化芸術劇場hitaru ② 札幌パークホテル（中継会場）	＜フォーラムの概要＞ ※主なプログラムと内容 初日（8月27日） • 基調講演：伊吹文明 元衆議院議長 テーマ：「主権を預かる誇りと責任」 → 議員としての使命感と市民との信頼関係の再構築の重要性が語られた →議員は「市民の声を政策に変える翻訳者」であるべきという提言あり • パネルディスカッション テーマ：「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」 ○ コーディネーター：辻 陽（近畿大学法学部教授） ○ パネリスト：牧原 出（東京大学教授）、白石 洋一（読売新聞政治部）、山下 節子（宇部市議会議長）、長内 直也（札幌市議会議長） ・若者や女性、働きながら議員を目指す方が少ない現状 ・報酬や働き方、議会のイメージなど、複合的な要因が背景にある 二日目（8月28日） • 課題討議：「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」 ○ コーディネーター：牧瀬 稔（関東学院大学教授） ○ 事例報告者：今井 康善（岡谷市議会前議長）、平神 純子（南さつま市議）、中野 進（白山市議会議長） → 無投票回避や若年層へのアプローチなど、各地の実践例が共有された 3. 所感と学び • 議員の「なり手不足」問題は構造的課題であり、単なる対策ではなく「政策」として捉える必要性を痛感。 • 働き方改革や報酬制度の見直し、若者・女性・多様な背景を持つ人材の参画促進が急務。 • 地方議会の魅力や意義を市民に伝える広報戦略の強化も不可欠。

		4. 今後の活用と提案 • 長野市議会においても、議員候補者育成の仕組みや市民との対話の場の創出を検討すべきでは？ • 他自治体の事例を参考に、無投票回避のための啓発活動や議会の見える化を推進。 • 次回フォーラム（2026年・松江市）に向けて、長野市の取り組みを発信出来ればと思う。

行　政　視　察　報　告　書（No.2）

（視察参加者必須）

報告者氏名　浅川　徹

月　日	訪問先	訪問結果（参考になった事項、考察）
8月27日	札幌市若者支援総合センター	**※施設の概要と特徴について** • Youth+の設置目的：「社会的自立」に向けた支援 • 対象年齢：18～34歳 • 主な機能： 　○ フリースペースあり（飲食・勉強・交流） 　○ 音楽室・体育室などの活動空間の確保 　○ 専門相談（臨床心理士、キャリアカウンセラー等） 　○ 就労支援・地域連携プログラムの構築 **視察で得られた知見・印象** • 若者が「目的なくふらっと立ち寄れる」空間の重要性 • 職員との信頼関係が支援の起点になっている点 • コロナ禍での柔軟な対応（アウトリーチ、キッチンカー活用など） • 利用者の声や職員の姿勢から見える「支援の質」 **長野市への示唆** • 若者支援を「居場所」「相談」「社会参加」の三層で捉えるべきだと感じる。 • 地域資源との連携（学校、福祉、就労支援機関）をどう構築するか？を検討すべきと思う。 • 民間団体との協働や指定管理の可能性はないか？ • 若者支援施設の老朽化・更新課題にも言及すべきである。 **課題と今後の検討事項** • 札幌市でも利用者数の減少や施設の老朽化が課題 • 若者のニーズの多様化にどう対応するか？ • 長野市での制度的・財政的な導入可能性 **まとめ** • 若者支援は「福祉」だけでなく「まちづくり」の一環であると認識し、今後の議会質問や政策提案にも活かしていきたいと思う。

政務活動費　報告書【会派支出】

会派名　公明党長野市議員団

支払日	2025年　8月　25日			
支払先	キヤノンマーケティングジャパン㈱　千葉県千葉市美浜区中瀬1－7－2			
活動に要した経費	使途区分	経費の内訳、算出根拠等		金額
	(該当項目に〇)			円
	研究研修費			
	調査旅費			
	資料作成費		トータルサービス料	2,050
	資料購入費			
	広報・広聴費			
	人件費			
	事務所費			
	その他の経費			
			合計	2,050 円

(領収書添付欄)

17 07-08-25 WTU　2,050 SMBC(ｷﾔﾉﾝ

ご請求書（お引落のお知らせ）

Canon

登録番号：T5010401008297
2025年07月31日

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

380-0813　長野県長野市
大字鶴賀緑町１６１３
長野市役所議員内事務局　８Ｆ
公明党長野市議員団　御中

■お問合せ先
261-8544　千葉県千葉市美浜区
中瀬１丁目７－２
幕張事業所２４Ｆ
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
契約情報センター
Tel.：0120-658-901

[redacted]

100001 0001/0001 3707-C0-J

公明党長野市議員団　御中

いつも格別のお引立てを賜り誠に有難うございます。
下記の通りご請求申し上げます。

お客様番号	：[redacted]
請求書No.	：85055285
締日	：2025年07月分
ご請求額（税込）	：¥2,050−

お支払方法：ご指定口座より振替させていただきます。
お引落日　：2025年08月25日
お引落口座：[redacted]
****　**********
****

―――――各種サービス料金明細―――――

設置先名　公明党長野市議員団

契約書No.　[redacted]
伝票No.　KE000148553840
シリアルNo.　4BS10203

期間　2025/06/27～2025/07/30　製品名　IR-ADVC3830F

		今回値	前回値	控除数	ご使用数
1	カラーコピー	555	548	0	7
2	カラープリント	2,230	2,165	0	65
3	ブラック	2,748	2,706	0	42

品名　カウンター保守料金

			数量・月数	単価	金額
1	カラーコピー	1　～	7	22.00	154
2	カラープリント	1　～	65	22.00	1,430
3	ブラック	1　～	100	2.80	280

（ミニマム　100ｶｳﾝﾄ/月含む）

＜各種サービス料金合計＞　料金合計（税抜）　1,864

ご請求金額（税抜）	1,864
(10%対象	1,864
消費税等	186)
ご請求金額合計	2,050

#…非課税または免税／*…軽減税率対象品目／！…8%税率対象品目　0001 / 0001
X…全額ご入金済／レ…一部ご入金済

政務活動費　報告書【会派支出】

会派名　公明党長野市議員団

支払日	2025年　8月　27日			
支払先	サイボウズ株式会社　東京都中央区日本橋2－7－1　東京日本橋タワー28F			
活動に要した経費	使途区分	経費の内訳、算出根拠等		金額
	(該当項目に○)			円
	研究研修費			
	調査旅費			
	資料作成費		OFFICE ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ月額サービス	3,300
	資料購入費			
	広報・広聴費			
	人件費			
	事務所費			
	その他の経費			
			合計	3,300 円

(領収書添付欄)

07-08-27 WTU　　3,300 SMBC(ｻｲﾎﾞｳ

請求書兼口座振替通知書

Money Forward 掛け払い

〒380-8512
長野県長野市大字鶴賀緑町1613番地 長野市役所内公明党控え室

公明党長野市議員団

堀内伸悟 様

販売元

cybozu

サイボウズ株式会社
〒103-6027
東京都中央区日本橋2-7-1
東京日本橋タワー 27階

登録番号：T5010001072207

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。
下記の通りご請求申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

ご請求金額		3,300 円 (税込)	
消費税内訳	10% 対象	3,300円 (うち消費税 300円)	
請求日	2025年7月1日	振替日	2025年8月27日

振替日前日までに、指定の口座へご請求金額をご準備ください。

※口座振替依頼時にご指定の口座から振替を実施いたします。
※振替日が土日祝日の場合は、翌営業日が振替日になります。
※振替できなかった場合、再引落は致しません。別途指定する口座へ銀行振込をお願いいたします。
※返金処理が発生する場合、返金事務手数料として一律990円（税込）を申し受けます。

請求元

Money Forward 掛け払い

お問い合わせ先

マネーフォワードケッサイ株式会社
〒108-0023
東京都港区芝浦 3-1-21 msb Tamachi
田町ステーションタワーS 21F

お支払方法変更・返金依頼・ご質問はこちら

https://mfkessai.co.jp/kessai/buyer/ask/

ご請求内訳 (1/1)

品名	区分	単価	数量	金額
2025 年 7 月 1 日 （取引番号：B08774495）				
ｻｲﾎﾞｳｽﾞ Office ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞｺｰｽ 月額 (2025年7月分) (c52332)		600	5	3,000 (税抜)

マネーフォワードケッサイ株式会社は、本請求書をもって、以下のとおりご通知いたします。
販売元は、本請求書記載の代金債権を、当社に対して譲渡いたしました。当社は、販売元の代理人として、本請求書をもって、当該債権譲渡が行われたことをご通知いたします。

※印は軽減税率(8%)適用商品です。

口座振替通知コード：NA43-AVW4